

1. はじめに

日本の経済は明治20年ごろから軽工業を中心にして発展し、産業革命を迎えた。重工業についても日清戦争後、国内の鉄鋼をまかなう目的で1901年に八幡製鉄所が開業された。日露戦争後、大陸や朝鮮半島に原料供給地や商品市場が確保されると発展はいつそう活発になり、工場の数が増え、動力に電力が使用されるようになった。重工業の発展にともない鉱山開発もさかんとなり、足尾銅山の開発も進められた。

足尾銅山では水力発電所や精錬所などの機械化がすすめられ、明治後期には全国の10分の1の銅が生産された。しかし、精錬所から排出される煙は周辺の木々を枯らし、鉱山から出る鉾毒を含んだ水は、渡良瀬川に流れ込み、群馬県を含む下流の田畑を荒らした。

本単元は、日本の産業が軽工業から重工業へ進展していく流れを理解し、人々の生活の向上が見られた一方で、労働問題や社会問題が発生していることに気づくことを目標としている。今回は、これらの問題の中でも群馬県に大きな被害を及ぼした足尾鉾毒被害をとりあげ、具体的な範囲を確認することで公害の被害の影響の大きさに気づくことができるようにした

2. 指導計画

- ・植民地獲得競争と東アジア
- ・日清戦争
- ・日露戦争
- ・韓国と中国
- ・産業革命の進展（本時）
- ・近代文化の形成

3. 資料について

- 資料①「足尾銅山溶鉾炉」
- 資料②「鉾毒被害地図」
- 資料③「群馬県管内足尾銅毒被害地略図」
- 資料④「田畑被害地 明治28年」

4. 授業実践例

学習活動	支援及び留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○日本の近代化はどのように進展していったか、軽工業、重工業の発展のようすについて確認する。 ○近代化が進展したことで、人々の生活がどのように変化したか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郵系の国内生産量、輸入量、輸出量の変化や、八幡製鉄所の開業により鉄鋼の生産が増大したことなどから産業の発展のようすを確認させる。 ・衣服、食事、住居の変化をもとに、人々の生活が向上したことを確認させる。
<ul style="list-style-type: none"> ○近代産業発展の陰で、どんな問題が発生したか考える。 ○「足尾鉾毒被害地略図」と現在の地形図を比較し、影響が及んだ範囲の広さを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の発展が、労働問題や公害問題を発生させたことを確認させる。 ・地名にも着目させ、現在のどの範囲に及んだかを確認させる。
<ul style="list-style-type: none"> ○「足尾鉾毒被害地略図」と現在の地形図の比較をもとに、公害とはどのようなものだったのかを話し合う。 ・群馬県にも影響が及んだ。 ・日本各地に発生したのではないか。 ・解決のために苦労したのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公害は広い範囲に影響を及ぼし、渡良瀬川により、群馬県にも大きな影響を与えたことに着目させる。 ・産業の発展と公害の発生を関連づけて考えさせる。 ・解決のための地域住民の努力に気づくよう適切な助言を与える。
<ul style="list-style-type: none"> ○産業の発達と公害の発生との関連を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の近代化は、産業の発達によって人々の生活を向上させた一方で、深刻な公害を発生させたことに気づかせる。

5. まとめ

近代産業の発展にともなってさまざまな社会問題が発生し、群馬県では渡良瀬川流域で足尾鉾山の鉾毒による被害を受けた。生徒の中には「田中正造」や「足尾鉾毒事件」について知っているものが多い。しかし、公害というものの及ぼす範囲の大きさを想像することのできるものは少ないのではないだろうか。そこで本単元では地図を用いることで、影響が及んだ範囲の広さを確認することを行った。

また、今回使用した資料には当時の地名が記されている。これらの地名には、現在の地形図にも町名などにより残るものがあり、群馬県の地域を資料としてとりあげることで、より学習内容を身近なものとして理解しようとすることができると考える。

※この実践例に使用した資料の中には、当資料集に未掲載の館蔵資料があります。